

不登校児童生徒への対応事例 15 (高等学校第1学年男子)

～解消に向けて外部関係者と役割分担を明確にした組織的な対応～

問題の把握

当該生徒は、前年度、高校入学後、不登校により原級留置となったが、本年度初めに担任や学年団による登校刺激で再び登校意欲を取り戻し、登校できるようになった。しかし、6月上旬、学級集団への不適応等から再び不登校状態となった。そのため、当該生徒の不登校解消に向け、HR担任と学年団が中心となって、外部関係者との連携支援体制を確立して対応を進めた。

対応状況

〔対応の経過〕

○当該生徒の状況

- ・前年度、**怠学傾向**による欠席が多く、単位を取得できない科目があったことから、原級留置となった。
- ・**問題行動**も起こしており、**生活面**に課題が見られていた。

○当該生徒の家庭環境

- ・母子家庭であり、母親は「生活面における本人の行動が招いた結果は自己責任である」との考えから、当該生徒への生活指導に積極的でなく、学校と家庭の連携は必ずしも十分とは言えない。(関係図②)

○具体的な対応及び支援

【5月上旬】

- ・当該生徒は、学級内で生徒よりも年齢が上であることから、学級内の人間関係をどのように深めればよいか困惑し、次第に疎外感を抱くようになった。

【6月上旬】

- ・欠席が3日続いたため、担任が家庭訪問を行い、欠席の理由が学級集団への不適応であることを把握した。
- ・学年団を中心に当該生徒の個別の支援体制を構築するとともに、職員間で当該生徒に係る情報の共有を図った。
- ・連絡手段として、電話に加え、メールを活用することにより、保護者との連携を前年度より強化し、当該生徒の現状の把握に努めた。(関係図①)

【7月下旬】

- ・担任が当該生徒のアルバイト先の事業主と連携し、勤務態度等の情報を収集し、現状把握に努めるとともに、事業主からの当該生徒への登校を促してもらった。(関係図④⑤)

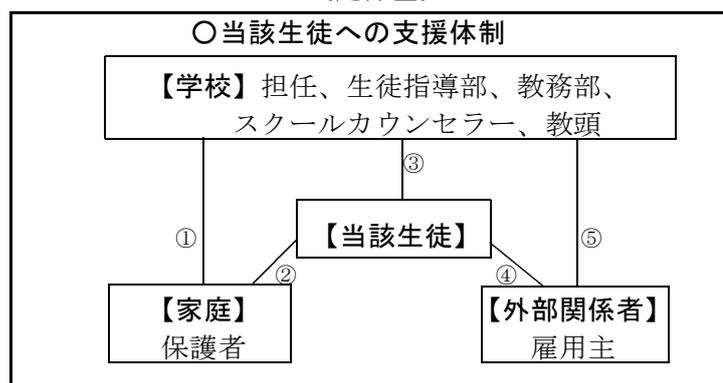
【8月下旬】

- ・担任、生徒指導部長、教務部長がそれぞれ当該生徒と個別面談を行い、当該生徒に高校卒業を目標として設定させるとともに、欠課時数の状況を細かに伝え、当該生徒の現状について認識させることにより、登校意欲の持続を図った。(関係図③)
- ・スクールカウンセラーと連携し、当該生徒の抱える問題を考慮した構成的グループエンカウターの活動を工夫し、人間関係を構築するためのスキルの向上を図った。(関係図③)

【12月】

- ・当該生徒の不登校は解消され、12月末の時点において、当該生徒は通常どおり、学校生活を送っている。

〔関係図〕



不登校の問題に対応するためのポイント

- ・校内における支援体制を確立するとともに、各教員の役割の明確化を図ること。
- ・児童生徒の校外における生活状況の把握とともに外部関係者との連携を図ること。
- ・心理的な課題の解消に向けた個別面談と面談を通して登校目的の明確化を図ること
- ・人間関係形成力の向上をねらいとした個に応じた構成的グループエンカウターの活動を工夫するとともに、不登校解消後の継続的な支援活動を実施すること。